

■行財政改革の推進

持続可能な財政運営をめざします。

- 行政の効率化とスリム化
- 借金体質の改善

将来像実現のための基本方策、戦略プロジェクトを着実に推進するためには、財政的裏づけが不可欠であり、これまで以上に行財政改革への取り組みを進める必要があります。

本市は、平成17年の合併前後からの集中投資により起債（借金）の残高が急激に増加しましたが、投資的経費を抑制し平成21年度から減少傾向に転じました。しかしながら、借金返済のための予算である公債費は、依然として増加傾向にあり、平成25年度にピークを迎え、その後も当分高止まりの状況が続く見込みです。

財政の健全度を公債費負担の状況から表す指標である、[※]実質公債費比率、[※]将来負担比率ともに[※]早期健全化基準には至らないものの、平成23年度の数値はそれぞれ21.4%、237.7%と県内8市で最も悪い状況であり、引き続き起債（借金）発行の抑制に努めなければなりません。

地方交付税については歳入の約3割を占めていますが、[※]合併算定替による特別加算が合併後10年を経過する平成27年度から段階的に減額され、平成34年度には、50億円近い一般財源が減少する見込みとなっています。

加えて、近年の少子高齢化の進行などによる社会保障費の増加にも対応せざるを得ない状況があります。

こうした非常に厳しい状況から脱却するためには、聖域を設けず徹底した行財政改革に取り組む一方、可能な限り将来を見通した財政計画を策定し、次世代に高負担を強いることのない持続可能な財政運営をめざさなければなりません。

具体的には、行財政改革大綱及び実施計画に基づいて、公共施設の統廃合と再配置、職員の定員管理と給与の適正化、公債費及び起債残高の抑制、公共サービスを受ける市民の負担の適正化など、市民の理解と協力を得ながら、着実かつ実効性のある改革を実施し、合併効果を最大限発揮し、行政の効率化、スリム化を図っていきます。

※実質公債費比率とは、借入金の返済額及びこれに準じる額の大きさを指標化し、資金繰りの危険度を示しています。早期健全化基準は25%です。

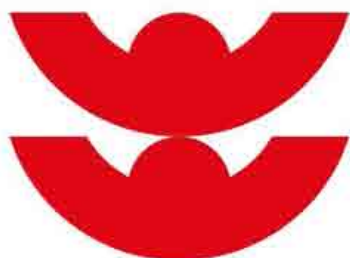
※将来負担比率とは、将来支払っていく可能性のある負担等の現時点での残高の程度を指標化し、将来の財政を圧迫する可能性が高いかどうかを示します。早期健全化基準は350%です。

※早期健全化基準とは、地方公共団体の財政の健全化に関する基準です。財政健全化法で規定した実質赤字比率・連結実質赤字比率・実質公債費比率・将来負担比率での基準値のいずれかを超過した地方公共団体は、財政健全化団体として自主的・計画的な財政の健全化が求められます。

※合併算定替とは、合併市町村に係る普通交付税の算定方法の特例です。合併した年度及びこれに続く10年間（斐川町との合併は5年間）は、合併前の旧市町村が存続した場合に算定される普通交付税の合算額が保障されます。さらにそれに続く5年間は激変緩和措置があり段階的に減額になります。

出雲市の市章・市の木・市の花・四季の花

市章



出雲市の「出」を図案化したデザインです。
大空にはばたく鳥や、大きく手をひろげる
市民をイメージし、全体として飛躍発展する
出雲市を表しています。

市の木 黒松



市の花 菊



四季の花



春／サクラ



春／ツツジ



夏／アジサイ



秋／コスモス



冬／ツバキ

■平成33年(2021)の目標人口

ここ数年の間に、日本の人口は減少に転じ、初めて継続的な人口減少社会に突入したと言われています。平成24年(2012)においては、前年からの人口減少数が26万人を超え、過去最大の減少数を記録するとともに、毎年、減少数が増え続けるものと予想されています。

国立社会保障・人口問題研究所が推計した平成32年の日本の将来推計人口は、約1億2,410万人とされ、平成22年と比較し約400万人が減少すると予想されています。

本市においても、同研究所の推計によれば、平成32年(2020)の人口は、約16万3千人となり、平成22年(2010)の人口から約8千人が減少すると予想されています。

しかしながら、本市においては、子育て支援や定住対策の充実、産業の振興と企業誘致による雇用創出、魅力あふれる出雲ブランドの情報発信や歴史文化遺産を生かした観光振興などに取り組み、「げんき、やさしさ、しあわせあふれる 縁結びのまち 出雲」を実現することで、平成33年(2021)は、人口17万人台を維持することを目標とします。また、特に人口減少や少子・高齢化が著しい地域については、地域コミュニティの活力が維持できるよう重点的な定住、人口減少対策を講じます。

出雲市の人口推移と将来推計人口、目標人口

(単位:万人)



(注) 平成22年までは国勢調査、平成27年は、国立社会保障・人口問題研究所による推計値(平成20年12月)
 平成33年の人口は、国立社会保障・人口問題研究所による平成32年と平成37年の推計値を基に算出
 ()内は、各年の4月1日現在の住民基本台帳の人数

■平成33年(2021)の目標交流人口

本市は、古くから「神話のふるさと」として全国に知られるとともに、多くの歴史文化遺産、豊かな自然とそれに育まれた様々な農林水産物や出雲そばなどの特産品にも恵まれています。

縁結びで親しまれている出雲大社では、平成25年5月に60年に一度の「平成の大遷宮」により全国から多くの参拝客、観光客が訪れることが期待されます。また、表参道の神門通りの整備も進められるとともに、新たな店舗も数多く出店し門前町の賑わいが創出されています。

この遷宮を契機に、広域的な観光ネットワーク化を進め、新たな観光ルートを提供するなど、本市の魅力的な観光資源を全国に発信し、心のこもったおもてなしの実践により誘客の拡大を図ります。

また、出雲のブランド開発をより一層進めるとともに、芸術文化及びスポーツなどのイベントの魅力を高めるなど、国内外への情報発信に努め、全国から多くの人が何度も訪れたいくなるまちをめざし、平成33年(2021)には、交流人口1,000万人の達成を目標とします。

出雲市の交流人口の推移と目標交流人口

(単位:万人)



資料)島根県観光動態調査

■土地利用の基本指針

本市は、豊かな自然の中にあって、山陰自動車道、街路事業、治水対策などの社会資本整備が着々と進展しています。

今後の土地利用にあたっては、その地域性や形状を踏まえつつ、「げんき、やさしさ、しあわせあふれる 縁結びのまち 出雲」を実現するため、次の視点に立って、計画的な整備、利用、保全を図ります。

(1) 都市拠点

本市の発展を支え、宍道湖・中海圏域の中心都市としての機能を発揮するために、都市計画区域における用途地域を「都市拠点」として位置づけます。

各地域それぞれの地域特性を生かし、官公署、商工業・観光・サービス業などの産業集積と良好な住宅環境の立地、形成を誘導するため、その基盤となる街路、河川、下水道などの都市基盤整備を進めます。こうした都市拠点を中心に活力あるまちを創造するため、今後の状況変化に応じて用途地域の拡大について検討します。

- **中核都市拠点**…出雲地域の用途地域(出雲長浜中核工業団地を除く、拡大予定地域を含む)
広域的な都市拠点として、商業、行政、都市居住機能、医療・福祉、文化、教育などの様々な高次都市機能が集積し、発展の中核となる市街地
- **東部都市拠点**…平田地域の用途地域
中核都市拠点に次ぐ都市拠点として、都市機能が集積し、都市の発展を支える市街地
- **観光都市拠点**…大社地域の用途地域
観光・文化・交流機能をはじめ、都市機能が集積し、観光都市づくりの中核となる市街地
- **産業都市拠点**…斐川地域の用途地域、出雲長浜中核工業団地
産業機能をはじめ、都市機能が集積し、産業都市づくりの中核となる市街地

(2) 周辺市街地

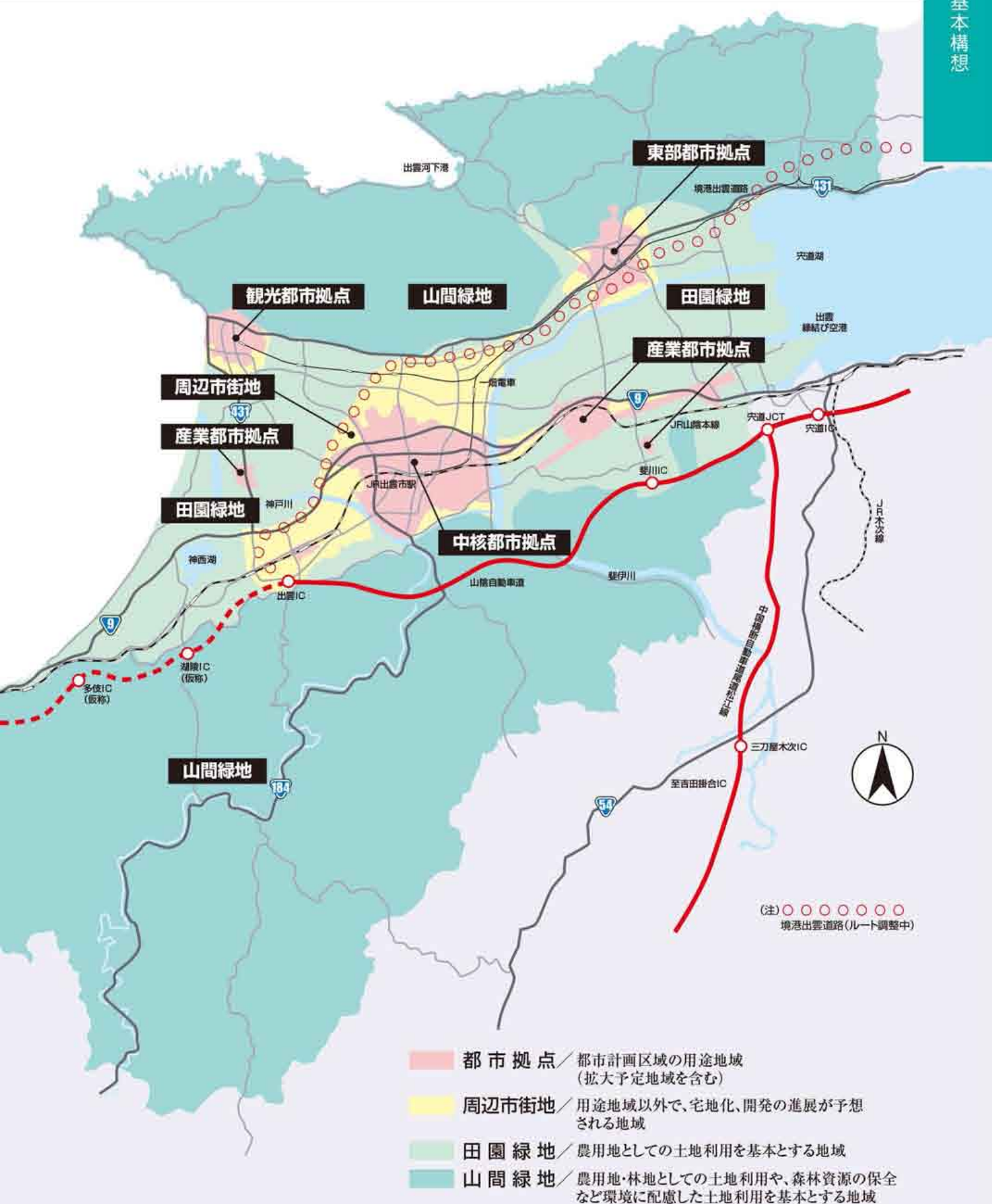
用途地域周辺にあって、幹線道路などの都市基盤整備や宅地化が進展しつつある「周辺市街地」については、田園環境の保全を基本として、適切な宅地化を計画的に誘導するとともに、新たな産業集積と農商工にわたる産業、ビジネスの一層の活性化に向け、秩序ある用地の活用にも努めます。

(3) 田園緑地

出雲平野に広がる「田園緑地」については、農業生産の場として農用地としての土地利用を基本に、農地の保全整備、営農環境の充実を図るとともに、出雲らしい田園景観と豊かな自然が織り成す美しい景観の保全に努めます。

(4) 山間緑地

「山間緑地」については、国土保全、土砂災害防止、水源かん養、地球温暖化防止など様々な公益的機能をもっています。森林・自然環境の保全と育成を前提とし、農山漁村の定住環境の整備や森林、海洋、温泉などの資源を生かした保養空間の活用を図ります。



みんなで描こう「未来の出雲」「大好きな出雲」 図画コンクール 入賞作品

この図画コンクールは、総合振興計画の策定にあたり、未来を担う子どもたちにも参画してほしい、出雲をもっと好きになってほしいとの思いから、平成24年7月から8月にかけて小・中学生に描いてもらったものです。

「未来の出雲」の部19作品、「大好きな出雲」の部48作品の応募があり、次の作品が入賞作品に決定しました。(学校名、学年は応募時のものです)

その他の応募作品については、P53に掲載しています。

未来の出雲

未来の出雲大賞



100年後の出雲
荒木小 3年 中山 敬介さん

未来の出雲賞



出雲ドームのとなりに観覧車ができるといいな
四絡小 2年 山本 雪那さん

未来の出雲賞



ゆめいっぱい「いずも」
今市小 2年 池淵 綾華さん

未来の出雲賞



朱鷺の飛ぶまち
神戸川小 4年 松岡 采花さん

未来の出雲賞



エコ出雲
神西小 5年 立原 愛也さん

未来の出雲賞



ゆたかな自然と宇宙エレベーター
高松小 6年 小田 昂到さん

大好きな出雲

大好き！出雲！大賞



大好きな大土地神楽
荘原小 3年 土江 もかさん

大好き！出雲！賞



ひこうきとひまわり
北陽小 1年 渡部 史菜さん

大好き！出雲！賞



シャインマスカット
今市小 2年 高橋 和加乃さん

大好き！出雲！賞



チューリップ畑
東小 2年 釜屋 陽菜さん

大好き！出雲！賞



あこがれの車掌さん
高松小 5年 矢田 寛也さん

大好き！出雲！賞



よみがえった神門通り
大社中 3年 梶谷 有里さん

戦

略プロジェクト

基本構想で示したまちづくりの将来像「げんき、やさしさ、しあわせあふれる 縁結びのまち 出雲」を実現するための基本方策を進めるにあたり、市をあげて取り組む4つのテーマを戦略プロジェクトとして掲げ、特に重点的に取り組んでいきます。

雇用創出2,000人
プロジェクト

定住人口キープ17万人
プロジェクト

交流人口1,000万人
プロジェクト

住みやすさNo.1
プロジェクト



雇用創出2,000人プロジェクト

雇用の場の確保は市民生活を支える最も重要な課題であり、市民満足度調査で最も市民ニーズが高い項目です。本市の産業をしっかりと支え、企業誘致や起業化支援に積極的に取り組むとともに、福祉や介護、農林水産業など幅広い分野の人材需要を掘り起こし、産業構造の変化や若年層などの就業ニーズに対応した多様な就業機会の確保に努めることにより、10年間で2,000人の新たな雇用創出をめざします。

地場産業の振興については、事業拡大や高度化を促進し、新製品・新技術の開発や新分野への進出、新産業の創出などを支援します。またブランド力のある多彩な農産物を生産する農業を中心に、林業、水産業がより魅力とやりがいのあるものとなるよう、各種施策に取り組めます。

近年、失職や就職難で困っている人が増加しており、事業者が求める人材の養成や雇用のミスマッチの解消を図り、新規学校卒業者や非正規雇用者などが安定した職業に就けるよう就職支援などに取り組めます。

守り育てる

農林水産業の振興

農林水産業は本市発展の基礎となる重要な産業であり、地域振興の要です。農林水産の各分野において、働く者の努力と個性が生きる魅力的な就労環境となるよう、生産基盤の整備、新技術の開発、業務の効率化・省力化、出雲の知名度を生かした販売戦略展開などを進めます。

また農林水産業は、住や食などを通して、市民の健康的・文化的生活に密接に関係することを踏まえ、安全・安心な地場産品の生産と消費が進むよう環境整備に努めます。



多伎いちじくの収穫

商工業の振興

中小商工業者の活性化を図るため、市内産品の販路拡大、新製品などの開発や新分野への進出促進に努めるとともに、金融支援も行います。

また、中核都市拠点の中心市街地や東部都市拠点の商店街などにおいては、空き店舗対策、商業環境整備、イベント開催支援などにより、賑わいや交流の場機能の再生を図ります。

一方、身近な商店がなくなり、買い物が困難となった、いわゆる買い物弱者の対策が急務となっており、暮らしを支えるための商業、流通への支援を行います。



夢フェスタinいずも

就業支援

ジョブ・ステーション出雲(出雲総合雇用情報センター)では、ハローワーク出雲と連携しながら、利用者に対して求人などの情報提供、適職診断、就職相談、就業支援、就職後のフォローアップまできめ細やかに対応し、就業の促進を図ります。

また、産業支援に取り組むNPO法人との連携により、求職者及び事業者の能力開発・資質向上を図るように努めます。



就職説明会

産業の担い手育成

農業では、集落営農の推進、組織の法人化、企業の新規参入の支援、アグリビジネススクールでの意欲ある農業者への研修を行うとともに、新規就農者への支度金制度などの支援により担い手の育成に取り組みます。

林業では、みどりの担い手育成事業による支援、水産業では、新規就業者に対する支援措置などの充実に努めます。

また、伝統工芸の優れた技術・技能を次世代に継承できるよう後継者育成や販路拡大を支援します。



アグリビジネススクール

新

たにチャレンジ

新産業の創出

農商工・産学官連携や企業間交流の推進により、新たな起業の促進や新産業の創出をめざすとともに、風力、水力、バイオマス、太陽光などの地域資源を活用した新エネルギーの導入・利用を促進し、関連産業の立地を図ります。



出雲産業フェア

企業誘致の推進

本市のもつ企業集積と恵まれた産業基盤、交通利便性の強みを生かし、既存の工業団地や空き工場などの低・未利用地への企業誘致を図るとともに、中心市街地などへIT関連などソフト産業系業種の誘致も促進します。

また、大規模災害のリスク分散に備える企業の誘致など新たな企業進出に備えるため、斐川中央工業団地を整備します。



斐川中央工業団地イメージ

出雲ブランドの推進（特産振興、販路の拡大）

水稻、麦、大豆をはじめ本市の地形や気候を生かして栽培された果樹、有機・減農薬野菜や、花き、海産物や加工品、また、継承されてきた伝統工芸品など、地域特性を生かした特産振興を進めます。

また、市内企業が生産する出雲とのかかわりのある商品・製品の「出雲ブランド商品」や「出雲推奨商品」の認定制度により、積極的に市内外へ情報発信を行い、販売促進・販路拡大に努めます。



西浜いも



西条柿

農林水産業の6次産業化

本市は自然豊かな海と山に囲まれ、ブランド力を持った多彩な特産品を誇ります。地元産品を活用したスイーツフェアの開催など、農林水産業者と加工、流通・販売業者とのマッチングを促進することにより、多様な業種と連携した新商品の開発や販路開拓、施設整備などの6次産業化や地産地消の取り組みを推進します。

また、一般企業の農業ビジネス参入についても支援し、新たな雇用創出をめざします。



シャインマスカットのスイーツフェア



定住人口キープ17万人プロジェクト

日本全体が人口減少の時代を迎える中で、本市においても現在の人口を維持していくことは大変厳しい状況です。しかしながら、大幅な人口減少は、生産力の低下など地域経済の停滞を招くのみならず、様々な地域の活力低下につながることから、本市では平成33年の目標人口を平成24年度と同様の17万人台を維持する目標を設定しました。

本市に住み続けたい、住んでみたいと思っていただくために、市民、企業、団体、行政それぞれのもてる総合力を結集して、縁結び、雇用、子育て、出雲ブランド、スポーツ、文化、人材など出雲市の魅力を高め、定住人口17万人台の維持をめざして全力で取り組みます。

守り育てる

定住支援

全国に住みよいまち出雲の魅力を積極的に情報発信するとともに、島根県や(公財)ふるさと島根定住財団をはじめとする関係機関との連携を強化し、住まいや就労などUターン者のニーズに対応した情報提供と支援を行い定住を促進します。

また、新築住宅に対する固定資産税の*課税免除制度を平成28年まで延長し、住宅の建設を促進するとともに、既存の市営住宅などの活用により住宅を安定的に提供し、定住促進を図ります。

※「出雲市新築住宅に対する固定資産税の課税免除に関する条例」に基づきます。

公共交通ネットワークの整備

路線バスや一畑電車の運行確保に努めるとともに、JRやその他の交通機関との円滑な連結に努め、中心市街地や各地域の生活拠点施設へのアクセスと利便性の向上を図ります。

また、バス交通については、地域で組織された運行協議会とともに、より望ましい運行形態を検討し、各地域において多くの利用が見込まれる運行形態の整備を図ります。



一畑電車



生活バス

市民活動の支援

市民自らの意思で自主的・主体的に地域の抱える課題の解決に取り組む市民や市民団体の活動が、まちづくりの新たな担い手として期待される中、市民や企業、各種団体（NPO法人を含む）と行政が互いの役割を理解し、連携協力していくことがますます重要となることから、市民と行政との協働のまちづくりを一層推進します。

また、出雲市総合ボランティアセンターを中心に、出雲市全域で*広範なボランティア活動の推進・意識啓発に取り組むとともに、ボランティアのネットワークづくりや災害時に官民が連携し迅速に対応できる災害ボランティアの組織づくりを推進します。

※広範なボランティア活動とは、個人やグループ、団体などが行う福祉、教育、文化、芸術、スポーツ、環境、国際協力、まちづくり、人権など幅広い市民活動のこと。



子どもたちによるビオトープの活動



東日本被災地支援の活動

新たにチャレンジ

縁結びプロジェクト（男女の出会いの場創出、結婚支援）

少子化は、労働力の減少による地域経済への影響や地域コミュニティ機能の低下など、将来の地域全体の活力低下を及ぼす深刻な問題です。

少子化の要因の一つには価値観の多様化や独身男女の出会いの場の減少などによる未婚化、晩婚化の傾向があげられ、本市においても早急な対応が必要です。

地域の団体、企業などと連携を図りながら結婚を望む方が交流できる様々な出会いの場の創出や、市民が主体となった結婚支援活動を支援します。



縁結び（イメージ）

維持が困難な集落の支援

本市の中山間地や海岸部には、人口減少と少子高齢化が著しく進み、住民自治、農作業や冠婚葬祭など、共同体としての機能維持が困難な集落が今後大幅に増加することが予想され、それぞれの地域の実態にあった対策を講ずることが急務です。特に、緊急な対策が必要な地域における支援を強化するための組織を支所内に設置します。

また、地域住民が主体的に取り組めるよう十分な話し合いができることが重要であり、地域づくりリーダーの育成を図るとともに、共同による農林水産業のコミュニティビジネスの創出、地域資源を利活用した元気の出る地域づくりや起業化に向けた支援に取り組めます。



出雲市集落応援隊の活動

出雲ブランドの推進（出雲の魅力発見・情報発信）

市民自らが出雲の魅力を再発見し、出雲に住むことへの誇りや愛着をさらに深め、ひいては市外から憧れを抱かれるまちとなるよう、出雲ブランド化推進市民委員会を中心に、多くの市民の参画を得ながら、「大好き☆出雲!」の合言葉のもと様々な取り組みを展開します。

子どもたちに出雲の魅力、先人の知恵や現代の技術、ふるさとの歴史文化や自然などについて体験的に学ぶ機会の充実を図り、郷土への誇りや愛着を育みます。

また、出雲の情報発信力を強化するため、フィルムコミッションの設立などを検討します。



出雲ブランド化推進市民委員会の活動



大好き☆出雲!ホームページ



大好き☆出雲!ロゴマーク



交流人口1,000万人プロジェクト

地域経済を活性化するためには、観光産業を中心とした交流人口増加の取り組みが大変重要です。本市は、日本有数の観光資源を有する地であり、特に出雲大社周辺を歴史文化のシンボル空間と位置づけ、関連道路や街なみ景観の整備、商店街の活性化を支援します。そして、心地よく楽しみながらまち歩きができる空間を創出し、「神話の國 出雲」の中心的な観光地としての求心力を高めます。

また、歴史文化遺産を結ぶ歴史探訪ルートの構築、豊かな自然資源を活用したレジャー施設、神話・縁結び・神在月・食文化・スポーツ・医療などをキーワードに、出雲の知名度向上にも繋がる全国規模の各種大会やイベントの開催、多様な観光客のニーズに対応した各種施策の展開や、国内、国外を問わず広域連携による観光施策を推進し、滞在力の強化を図るとともに、豊かな歴史・文化・自然資源を最大限に生かし、交流人口1,000万人の達成をめざします。

守り育てる

歴史文化遺産の保存活用

本市の歴史文化遺産の価値を市民が再認識するとともに後世に伝えるため、出雲大社や鰐淵寺、田儀櫻井家たたら製鉄遺跡、国富中村古墳、旧大社駅など市内に多数存在する歴史文化遺産の保存整備、活用を進めます。

また、出雲弥生の森博物館を文化財行政の拠点とし、荒神谷博物館や古代出雲歴史博物館と連携しながら、歴史資料の収集、調査研究を行い、その成果を全国へ情報発信するとともに、歴史学習の機会を提供します。



出雲弥生の森博物館



田儀櫻井家たたら製鉄遺跡



荒神谷遺跡

観光ネットワークの構築

パワースポットとして注目を集める須佐神社、江戸期の街並みの面影をとどめる木綿街道、夏でも冷風が吹き出す八雲風穴、映画「RAILWAYS」の舞台となった一畑電車など、歴史文化、自然、産業などの豊かな地域資源を生かし、多様なテーマに基づいた広域周遊ルートを設定します。特に神話、縁結びなどをキーワードとしたストーリー別広域観光ルートを設定するとともに、観光スポットを巡る移動手段をわかりやすく提供し、観光客の周遊性や利便性を高めます。

また、中海・宍道湖・大山圏域市長会の構成市や石見銀山などの近隣地域と連携し、広域的な観光資源を活用した圏域全体の魅力向上と誘客を促進するとともに、近隣の市や民間企業と連携し、電気自動車のレンタル事業を活用した観光にも取り組みます。



須佐神社



一畑寺

歴史文化のシンボル空間の整備

歴史文化のシンボル空間である出雲大社周辺のまち歩きを魅力を高めるため、神門通りの歩車道整備や街なみ景観の保全と形成を図ります。出雲阿国ゆかりの地などのスポットを結ぶ回遊コースや神迎えの道などの散策道の美装化、誘導看板の設置、まち歩きガイドの充実により、観光客の利便性、満足度を高めます。

ご縁広場における物販施設の整備や吉兆館、温泉施設の有効活用により、その情報発信・集客拠点としての機能を強化します。また、神門通りの商店街の改装や新規出店を支援し、観光地としての商業施設の整備充実を促進します。



神門通りの賑わい

出雲ブランドの推進(神在月、地域の特色を生かした交流推進)

神在月にあわせ、イベントを含めた様々な情報を全国に発信します。また、出雲全日本大学選抜駅伝競走、神在月出雲そばまつり、出雲総合芸術文化祭など、大型イベントを実施し、全国からの誘客を図るとともに、出雲発祥の「ぜんざい」など食文化を通じた交流を推進します。



出雲全日本大学選抜駅伝競走

新

たにチャレンジ

広域交通ネットワークの構築

広域交通網の主軸となる山陰自動車道をはじめ、高速道路ネットワークの早期構築をめざすとともに、地域高規格道路境港出雲道路の早期ルート決定と事業化を促進します。

出雲縁結び空港の国内路線網を充実させ、空港利用者の利便性向上を図るとともに、国際路線の就航をめざします。

また鉄道の利用を促進し、利便性向上を図るとともに、関係機関と連携し山陰新幹線、中国横断新幹線の導入を推進します。

出雲河下港については、湾内の静穏度を確保し、年間を通して、安定的な利用を可能とする沖防波堤の整備及びアクセス道路の整備を推進し、国内外との海運拠点としての機能強化を図ります。



山陰自動車道



出雲縁結び空港



出雲河下港

インバウンド観光(外国人による訪日観光)の推進

内需喚起の起爆剤として、新たな観光市場を開拓するため、海外からの観光誘客を推進します。海外からの観光商品造成支援、外国語対応ガイドの養成など、官民一体となったホスピタリティ(心からのおもてなし)を提供できる体制の充実を図るとともに、映画祭などのイベントを活用し、海外への情報発信に努めます。

また、出雲縁結び空港や米子鬼太郎空港、フェリーの海外定期航路を中心に、東アジアとの国際路線の利用や新規就航を中海・宍道湖・大山圏域で取り組みます。

出雲大社「平成の大遷宮」後の観光対策

60年ぶりに行われる出雲大社「平成の大遷宮」後も引き続き出雲の魅力を広く全国に発信するとともに、神門通りの更なる賑わいの拡大をめざします。出雲大社を核として、市全体の観光スポットへ周遊する取り組みを展開し、再び訪れていただけるような仕掛けづくりや着地型観光プランの開発に取り組みます。

また、スポーツ、田舎体験、医療ツーリズムなど、充実した観光素材を活用し、多様なニーズに対応する商品開発や仕組みづくりに努めます。



出雲大社



出雲日御碕灯台

スポーツ・レジャー空間の活用

日御碕、キララビーチに代表される美しく豊かな海岸線、宍道湖・神西湖周辺、斐伊川・神戸川流域、さらに絶好のビュースポットである立久恵峡など山系の森と水を生かし、市民の憩いの場として、また交流人口の拡大のため、市内各種施設と連携しながら様々なスポーツ・レジャー空間としての活用を図ります。

現在休園状態にある出雲いりすの丘は、日本三美人の湯である湯の川温泉の活性化と連携を含めた民間活力の導入などあらゆる活用の方策を検討します。



神西湖



湯の川温泉

住みやすさNo.1プロジェクト

日頃から安全で安心して暮らすことができるまちであることは多くの市民の願いです。

本市の抱える課題解決のため、これまでの取り組みや市民満足度調査の結果から、「消防・救急体制の充実」や「防災体制の充実・強化」など市民の重要度が高い施策や、市民生活に密接な関わりのある各分野(防災、環境、新エネルギー、健康、福祉、子育て、バリアフリー、文化、スポーツ、教育など)の施策については、特に重点的、計画的に取り組めます。

市民にとって「生活が良くなった」、「住みやすくなった」と実感できるよう、本市の住みやすさの総合的な満足度を高めることにより、「ずっと出雲市に住み続けたい」、「出雲が大好き」と思える「市民一人ひとりにとって住みやすさNo.1のまち」をめざします。

守り育てる

防災安全都市の構築

安全で安心して暮らせる災害に強いまちづくりを進めるため、様々な災害に対応できる地域防災計画の見直し、高度な消防救急体制の整備、防災行政無線の充実を図ります。

また、自然災害から市民の生命・財産を守る治水・治山事業などを推進し、災害の発生防止に努めるとともに、万一に備えた原子力災害に対応できる体制の構築を進めます。



出雲市防災訓練

生涯現役支援(健康づくり、疾病予防、介護予防の充実)

健康診査や健康相談をはじめとする保健サービスを充実させ、疾病予防、生活習慣病予防、介護予防を図るとともに、各年代のライフサイクルに沿った住民参加の健康づくりを進め、市民が生涯にわたって生き生きと健康で心豊かに暮らすことのできる生涯現役のまちづくりを推進します。



夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会

保健・医療・福祉ネットワークの構築と連携強化

総合医療センター、県立中央病院、島根大学医学部、同附属病院、県立大学出雲キャンパス、トリニティカレッジ出雲医療福祉専門学校、出雲医療看護専門学校（平成25年4月開校予定）などの医療機関・医療福祉系教育機関などが集積した立地の優位性を生かし、地域の保健・福祉関係施設と連携して、予防、疾病の早期発見から治療、在宅復帰、福祉サービスにいたるまで切れ目なく続く体制とネットワークを構築し、すべての市民が住み慣れた地域で安心した暮らしを実現できるまちづくりを推進します。



ネットワークイメージ図

子育て支援

子どもを安心して生み、喜びをもって子育てができる環境を整えるため、多様なニーズに対応した子育て支援策の充実を図るとともに、育児などに関する相談体制の充実を図ります。

また、子どもの健やかな成長のために、各種健診、訪問、相談、教室、予防接種などの母子保健サービスを充実するとともに、地域の子育て力を活用するなど総合的な保健施策の充実を図ります。

あわせて、一般不妊治療助成や養育支援訪問など、支援が必要な家庭への適切なサービスを提供します。



母子健診

高齢者、障がい者の支援

高齢者の健康増進、介護予防の取り組みを推進するとともに、様々な社会参加を促進し、住み慣れた地域でそれぞれが生きがいを感じながら安心して暮らせる住みやすいまちづくりを進めます。

障がいがあっても、住み慣れた地域で充実した暮らしが実現できるよう、障がい福祉サービスや身近な相談・支援体制の充実を図ります。



いきいき体操教室

人材育成(特色ある学校教育、学力向上、文化・スポーツの振興、ボランティア育成)

未来の出雲を担う子どもをたくましく育てるため、出雲科学館を活用した理科学習や特色ある学校教育を充実させ、確かな学力の定着を図るとともに、創造性豊かな人材の育成をめざします。

また、特別な支援や不登校、問題行動など困難を抱える児童生徒への支援など子どもたち一人ひとりを大切にする教育を実践します。

文化・スポーツについては、子どもから高齢者まで多くの市民が参加しやすい機会を提供し、一層の振興を図ります。特に、近年のスポーツにおける女性の活躍は著しいものがあり、本市においても、新たな視点に対応できるスポーツ振興の充実について検討します。

さらに、市民自らが地域の抱える課題について考え、創意工夫による問題解決が図られるよう主体的な市民活動、コミュニティ活動、ボランティア活動を支援し、協働のまちづくりを推進します。



出雲科学館での理科学習



出雲歌舞伎むらくも座



出雲ドーム

自然環境保全(森林再生、河川・湖沼の水質改善、トキをシンボルとしたまちづくり)

本市の豊かな森林は、国土保全、土砂災害防止、水源かん養、地球温暖化防止など様々な公益的機能を有しており、その保全・再生を図ります。また、松くい虫の被害跡地の再生に努めます。

宍道湖、神西湖、斐伊川、神戸川をはじめとする河川・湖沼の水質改善を図り、自然環境を守ります。

また、全国で数箇所のトキ分散飼育の指定地として、トキをシンボルとした環境保全型農業など人と自然が共存できるまちづくりを推進します。



国際保護鳥トキ(出雲市トキ分散飼育センター)

循環型社会の構築(3Rの推進)

大量生産、大量消費、大量廃棄の社会構造から脱却し、限りある資源を効率的に利用し、持続可能な循環型社会を構築するため、ごみの減量化を徹底し、廃棄物の抑制、再使用、再資源化の取り組みを市民、企業、行政の協働により一層推進します。



いずも古着市

新にチャレンジ

子育て支援施設整備

すこやかな子どもの成長、発達のため乳幼児健康診査、乳幼児健康相談、離乳食教室などの母子保健サービスを提供する場として、また近年増加している発達障がいなど様々な支援の必要な子どもたちのネットワーク拠点機能を備えた複合施設の整備を検討します。



にここ教室

学びの拠点整備

少子化の進行により小規模校が増加している中で、子どもたちにとってより望ましい教育環境を提供するためには、できる限り学校の適正規模化を図る必要があります。このため、地域・学校・保護者の理解や協力を得ながら、小中学校、幼稚園の再編の取り組みを進めます。

学校施設については、学校施設整備・耐震化基本計画に基づき、計画的に耐震化対策と老朽改築・増築・大規模改造を行い、安全で安心な学校施設の改善を図ります。

生涯学習の拠点である文化スポーツ施設については、合併前の市町において整備されたことから、地域性やその利用度、施設管理やその老朽度も様々であるため、全ての施設を今のまま存続させることは財政的にも非常に困難です。各施設の機能分担や利用者のサービス向上を図るとともに、設置目的、利用状況などから施設整備や統廃合について検討します。



向陽中学校

新エネルギー導入の推進(太陽光発電・小水力発電の推進、木質バイオマスの活用)

大規模太陽光発電所の立地、木質バイオマス資源を活用したボイラーや小水力発電の導入などを進め、地域資源を活用した新エネルギーの導入・利用を促進し、地域振興、産業創出を図るとともに、エネルギーの安定した供給と持続可能な低炭素社会の実現をめざします。



新出雲風力発電所

空き家対策

高齢化の進行に伴い、人が住まなくなった空き家が増え、管理が行き届かず、草木の繁茂や家屋の崩壊などが問題になっています。

空き家の適切な管理を行い、市民が安全に安心して暮らすことのできる環境を守るため、「空き家対策条例(仮称)」の制定をめざします。

グリーンステップの利活用

斐伊川放水路事業の残土処理場「グリーンステップ」については、広大な用地を生かし、地域の発展に繋がるような利活用策の検討を行います。

次期可燃ごみ処理施設整備

出雲エネルギーセンターについては、耐用年数などを考慮し、それに替わる次期可燃ごみ処理施設の調査検討に着手し、整備を進めます。



出雲エネルギーセンター

■地域別のまちづくり像

「大社地域まちづくり計画」の提言

1. 活気あふれるまちを目指します!
2. だれもが明るく健康にすごせるまちを目指します!
3. 子どもが健やかに羽ばたくまちを目指します!
4. 心豊かな人材のあふれるまちを目指します!
5. だれもが心やすらぐまちを目指します!
6. だれもが安心して暮らせるまちを目指します!

「湖陵地域まちづくり計画」の提言

安心して住みたくする定住のまちづくり

住民と行政との協働により心豊かな地域社会、快適住環境の整備、産業間の連携を図り、安心して住みたくする定住のまちづくりを進めます。

1. 心豊かな地域社会をめざしたまちづくり
2. 豊かな自然景観と調和の取れた快適環境のまちづくり
3. あらゆる産業が連携する特色あるまちづくり

「多伎地域まちづくり計画」の提言

“海光り ひと輝くまち”

1. 私たちは地域特性に着目した特産振興活動をしします。
2. 私たちは自らの手で自然と共生した快適生活環境をつくります。
3. 私たちは人にやさしい健康のまちづくり活動をしします。
4. 私たちは夢育む教育と地域文化の伝承活動をしします。
5. 私たちは対流を生む多様な交流活動をしします。
6. 私たちは一人ひとりが住民自立の地域運営活動をしします。
7. 私たちは住み続けたいまちづくりのために活動しします。

「佐田地域まちづくり計画」の提言

文化・産業と健康・福祉の住みよい環境づくり

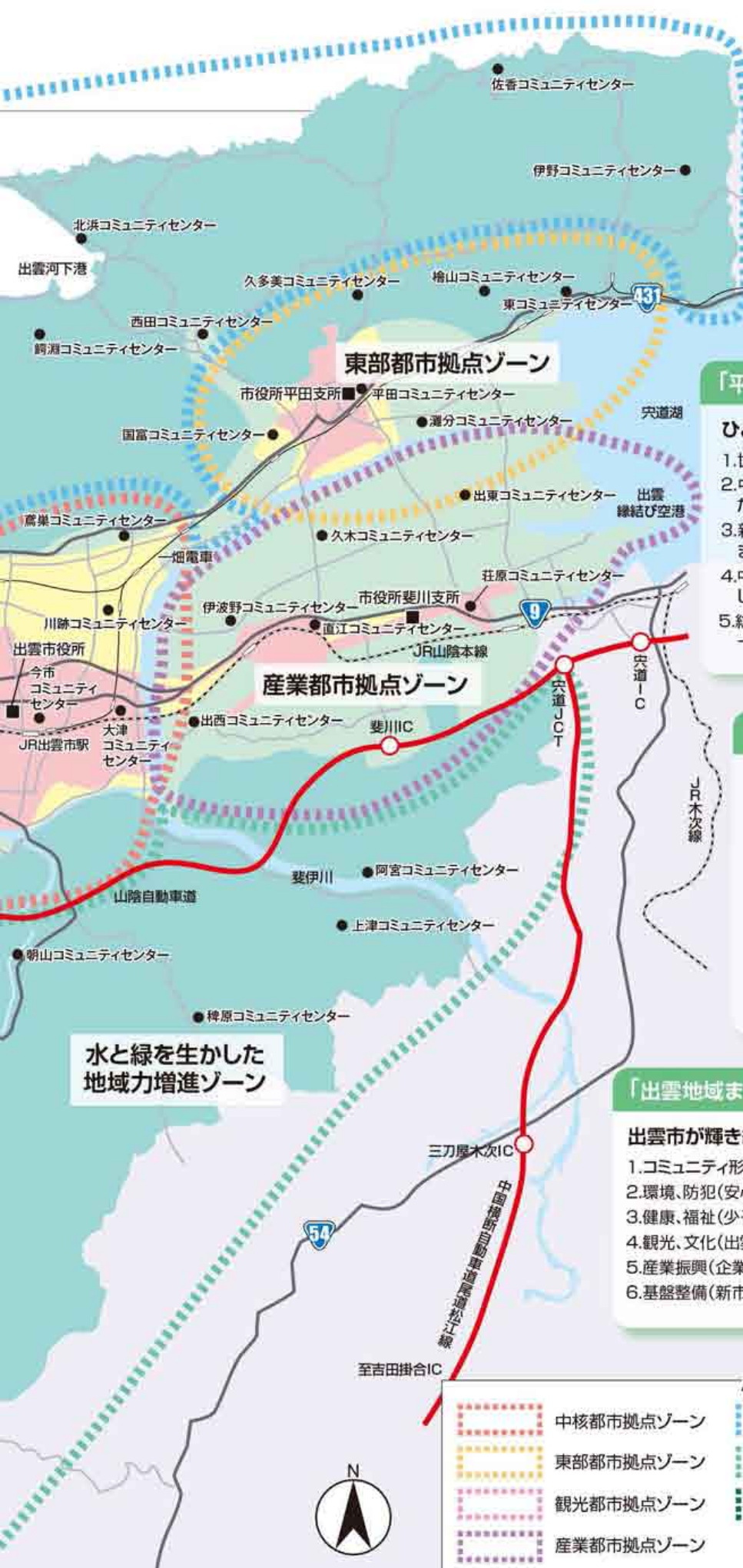
1. コミュニティ活動の推進で自立のまちづくり
2. 福祉活動と健康づくりの推進、子育て支援の充実で安心のまちづくり
3. 産業振興と若者の定住対策の推進で元気なまちづくり
4. 道路・通信網など生活基盤整備の推進で強いまちづくり
5. 文化・芸術・観光の推進で輝くまちづくり
6. 自然と環境に配慮したやさしいまちづくり

海と緑を生かした 地域力増進ゾーン

観光都市 拠点ゾーン

中核都市 拠点ゾーン

緑の交流ゾーン



地域まちづくり計画

各地域のめざすまちづくりを実現するため、それぞれの地域において策定された活動計画です。

「平田地域まちづくり計画」の提言

ひとまちも温かい平田づくり

1. 世代を超えた人材育成によるまちづくり
2. 中山間地域・海岸地域の魅力を最大限に活かしたコミュニティづくり
3. 新エネルギー開発を核とした環境・経済・交流のまちづくり
4. 中ノ島商業集積地・木綿街道・商店街等を核とした東部都市拠点づくり
5. 総合医療センターを核とした保健・福祉・医療が一体となった福祉拠点づくり

「斐川地域まちづくり計画」の提言

心のふるさと

～未来と古代が響きあうまち ひかわ～

1. 自然と歴史の共生と文化の香るまちづくり
(自然環境保全、伝統文化・伝統芸能など)
2. 安全・安心で快適なまちづくり
(防災・防犯、子育て支援など)
3. 産業・観光振興で元気なまちづくり
(農業振興、商工業振興など)
4. 人と地域が交流するまちづくり
(地域コミュニティの活性化など)

「出雲地域まちづくり計画」の提言

出雲市が輝き続けるために

1. コミュニティ形成と人材育成(地域コミュニティの再構築など)
2. 環境、防犯(安心で安全に暮らせるまちづくりなど)
3. 健康、福祉(少子化問題への対応など)
4. 観光、文化(出雲大社など他地域との連携による観光振興など)
5. 産業振興(企業誘致と若者定住対策の強化など)
6. 基盤整備(新市の中心的機能の充実など)

凡 例

- 中核都市拠点ゾーン
- 東部都市拠点ゾーン
- 観光都市拠点ゾーン
- 産業都市拠点ゾーン

- 海と緑を生かした地域力増進ゾーン
- 水と緑を生かした地域力増進ゾーン
- 緑の交流ゾーン

※斐川地域のコミュニティセンターは、平成25年3月までは公民館であり、同年4月から名称変更の予定。